



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKOROZAWA

2025 年 11 月 通巻 431 号

今月のテーマ BF・iGO・STEP



会 長	小林 勉	クラブ会長主題 「人、出会い、交流」
副会長	岡部八千代	国際会長 A・シヤナヴァスカーン（インド） 「より良い世界のために、共に」
	澁谷弘祐	アジア太平洋会長 ジョウン・ウォン（香港） 「大きなインパクトを起こそう」
書 記	宮地輝子	東日本区理事 山下 真（十勝） 「ワイズらしさ再発見」
会 計	金本伸二郎	関東東部部長 鈴木雅博（江東） 「CHANGE （変革） 若者から発信！」

今月の聖句

私の目を開いてください
あなたの律法による奇しき業に
目を留めることができるように。

詩編 119 編 18 節

11 月例会 チャリティラン

日時：令和 7 年 11 月 3 日（月）

10：00～14：30

会場：航空公園

所沢クラブは 2 チームエントリー

A チーム ボランティア走者

B チーム 小林恵子・澁谷すみれ・大野ゆかり

太田陽介・太田武（タケン）

〈タイムテーブル〉

8：30 運営ボランティア集合

9：20～ チーム受付開始（～10：30）

10：00 開会式

10：45 チームランスタート

11：30 個人種目スタート

12：15 個人種目 全員完走・完歩予定

完走・完歩後は野外ステージ観客席で休憩・昼食
とることができる

13：00～表彰式（チームラン順位発表・各賞発表授
与）

13：40～ ラッフル抽選会

14：10～ 閉会式（埼玉 YMCA 総主事挨拶・寄付金贈
呈式）

14：30 全プログラム終了

※昼食準備のため 会費 500 円

1 枚の写真が語る昭和

岡部 八千代



Z 世代と言われる若者の間で、昭和のファッション、音楽、食品、生活スタイル等に興味を持ち取り入れている者が増えている。正に昭和人間の私達には不思議であるが評価され見直されている事に納得もするし嬉しい。

この写真は昭和 30 年初頭の我が家の正月のものである。独立している 4 男と 5 男が我が家を訪れ、トランプを楽しんでいた時のものである。右から父、母、私、5 男、妹、姉、4 男である。4 男も 5 男もまだ独身であった。一番右は父親で背広にネクタイ、ベストを着て指には煙草を持ち少し微笑んでいる。母親は和服に割烹着。当時の主婦は日常的に白い割烹着を着ていた。母は普段でも和服で足袋であった。私は小学校 3 年生で三つ編み。毎朝、母が縁側で三つ編みを結んでくれていた。5 男はとてもおしゃれで多趣味。この写真も 5 男が三脚を使って映してくれた。妹は前年の 11 月に七五三のお祝いをし、その時の着物を正月にも着ていた。当時の髪飾りは鳥などが装飾してある大きなリボンであった。姉は小学校 6 年生で髪はパーマをかけている。当時、3 姉妹共近く的美容院で電気パーマをかけてもらった。一番左は 5 男、小

学校の教員をしていた。ポマードを付けびしっとした髪で真面目で優しい兄であった。小学校教師であったからか、話題が豊富で兄の話を聞いたり、一緒にゲームをしたりするのが大好きで、私たち姉妹は4男の来るのを愉しみにしていた。当時、冬の暖房は炬燵と火鉢だけで、炬燵の燃料は炭か練炭。猫が練炭の二酸化炭素でヨタヨタと炬燵から出てきたのを思い出す。家族の後ろに見えるのは障子である。昭和家屋の部屋の仕切りは障子と襖であった。年に1回、父が障子の張替えを上手にやっていたのを思い出す。襖は客間に使用していた。奥の部屋の上に裸電が見える。当時はまだ蛍光灯はなく、裸電球が一般的であり、客間の電気には電球をカバーする傘と言うので装飾していた。このたった1枚の写真であるが、当時のファッション、家屋、生活の一端がうかがえてとても懐かしく、当時の家族の和やかな平和な雰囲気が伝わってくる。第二次世界大戦後10年程が過ぎ、生活も少しずつ楽になり平穏な生活が出来る様になってきたのである。現代の若者が何処に昭和時代に魅せられるのかは定かでないが、昭和は遠くになりけりと忘れつつあった昨今に見直されるのは昭和世代の私にとっては嬉しい限りだ。確かに、現代は便利で楽な日常生活が送れる。しかし、人のだまし合いや犯罪が横行している現代は果たして平穏で生活し易い時代といえるだろうか？昭和、平成、令和と3世代を生きてきた私には、昭和の人情、常識が生きていて安心した日常生活が送れた昭和が懐かしく「バックツウ昭和」してほしいと思う今日この頃である。

10月例会報告

宮地輝子

10月11日(土)ふらっとJOY(大澤様宅)で10月例会が行われました。参加者はゲストの八重樫さん・水上さん・池田さんの他、所沢クラブの9名、計12名の参加でした。当初の予定は山中湖 YMCA センター視察などでしたが皆さん、外出しての都合がつかず、急遽、ふらっとJOYで(猛暑の夏を越してきたので)暑気払い例会を



することになりました。

第1部のYMCA報告では太田総主事が9/15にYMCA全体研修が行われ、職員が年に一度、同じ場で学びと交流ができ、充実した研修であったことを話されました。ワイズ報告で小林会長がロースターの編集作業が10/5に終わり3部注文しYMCAの棚にあると報告しました。東京YMCA主催の災害スタディに9/20参加した大澤さんが、「東陽町の町で今まで気づかなかった多くのことを学んだ」と話されました。

第2部では食事をしながら、実際にあった詐欺の話を小林恵子さんがされて、大いに参考になりました。その後、「私はだれでしょう」というクイズをしました。好きな色・食べ物・人・出身地などをそれぞれ書いてもらい、誰であるか当ててののですが楽しい交流の場となりました。



終わりに八重樫さんから、9月例会での八重樫さんの講演会の後、台湾での写真展や山形での写真展・ギャラリートークなどオファーあったことを報告されました。当クラブで実施した講演がきっかけで「それぞれのカミングアウト」が波及されたことは嬉しいことです。

今後の予定

宮地輝子

11月3日(月) 埼玉YMCAチャリティーラン

於：所沢航空公園特設ステージ

10:00～(受付開始9:20)

昼食用意あり・参加費 500円

例会報告 大澤

11月23日(日) フェスティバル

10:00 集合開始準備のため

12月1日(月) ブリテン発行 一面 柿原

12月 クリスマス会

例会報告 宮地

1月1日(木) ブリテン発行 一面 金本

— 所沢センター キッズアカデミー スポーツデイ —
所沢センターの2階には、英語と日本語で保育を行う「キッズアカデミー」があります。センターを訪れた際に、元気いっぱいの子どもたちの声を耳にされた方も多いのではないのでしょうか。

10月18日には、恒例の「スポーツデイ（運動会）」が開催されました。この日のために子どもたちはダンスや競技、さまざまな出し物を一生懸命練習してきました。中でも注目を集めたのは、年長のライオンクラスが初めて挑戦した組体操です。最後に見事なピラミッドが完成した瞬間、会場には大きな歓声と拍手が沸き起こりました。この成功の背景には、ウェルネス部門スタッフの熱心なサポートがありました。

昨年は入場のときに泣きながら抱っこされていた子も、今年は一人で堂々と入場できました。また緊張してダンスの時に固まってしまった子が、今年は笑顔で楽しそうに踊っていました。リレーの途中で追いつけず涙を流しながら最後まで走りきる子もいました。それぞれが自分の段階の中で精一杯に取り組み、その姿の中に確かな成長が感じられました。

日頃から子どもたちを見守り支える担任や、スタッフ、講師、ボランティアの温かなまなざしが子どもたちを育んでいます。ぜひ皆さんも、未来を担うキッズアカデミーの子どもたちの姿を見にいらしてください。



10月3日にYMCA 所沢センターで浅羽埼玉ワイズ会長、利根川川越ワイズ会長、太田 YMCA 主事と私の4人で初顔合わせの会議を開きました。

同会議の発案者は浅羽会長で、「このところ、ワイズメンズクラブ会員の YMCA 活動に対する理解や認識が不足しているように感じる。YMCA スタッフとの交流をもっと増やして活動の理解につながるイベントを開きたいので、4者で意見交換したい。」との提案がありました。

太田主事から「コロナにより縮小、中止していた事業が少しずつ回復している。しかし人材採用・確保が社会問題になっているように、YMCA でも同じ状況にあり、ワイズメンにもボランティアの協力をいただきながら、限られた人員の中での事業運営の工夫に努めている。ご提案にあるスタッフとの交流であれば「合同クリスマス会」や「フェスティバル」が良い機会だと思う。YMCA 活動の理解と認識不足については、それぞれの担当主事がその役割にある」とのお話がありました。

各ワイズクラブそれぞれの現状を交換し合い、「3クラブメンの会員と YMCA スタッフの交流の場を作ろう」ということで合意しました。私から「新年1月に予定している所沢クラブの例会（新年会）を4者の合同新年会としてはどうか」と提案したところ「有志による食事つき懇談会の開催について各クラブ・YMCA で検討しよう」となりました。

現在のところ YMCA から4名、川越クラブから4名の参加を予定している旨連絡がありました。会場はYMCA 子育て子育てセンターの2階を予定しております。

10月の例会は11日（土）17時から大澤さん宅【ふらっと JOY】にワイズ会員9名ゲスト3名総勢12名が集まり、懇親会を兼ねて行いました。手作りの料理を囲み「自己紹介ゲーム」と懇談で楽しいひと時を過ごしました。自己紹介ゲームは初めての経験でしたが、【好きな：色、食べ物、人と出身地の4点を紙に書いて、それを読み上げて書いた人を当てる】ゲームで、これだけで誰かわかるのか？と思いましたが、“意外や意外” ほぼ当たってましたね。

この場で1月例会（新年会）を4者合同で行うことを提案し、皆さんから賛成を頂きました。当日の準備等については今打合せしているところですが、弁当は各参加者が持参することになりそうです。その他の飲み物やオードブルは所沢クラブで準備したいと思います。

YMCA チャリティーランもうすぐですね。ラン参加者の皆さんのご奮闘を祈念しております

しっかり応援しますからね！！「頑張って〜」

ブリテン 8 月号に掲載された須田さんの「高齢者の一人として」を読んだ数名の会員から「心に響く共感する内容だ」「もっと須田さんの話を聴きたい」との反響があった。そこで、須田さんの都合の良い時にブリテンに寄稿して頂いたらどうかと提案し、全会員の賛成が得られた。それを受け、その旨を須田さんに伝え、少し躊躇されたが引き受けくださった。そこでコラム「コーヒータイムに」としてランダムであるが連載することに決まった。今回はその 1 回目である。



コーヒー タイムに



ゆっくりっ走る車の中から見えるありふれた風景…ランドセルを背負った少年たちが楽しそうにおしゃべりしながら歩いています。下校時間なのでしょう。

でも、うつむきながら重い足取りで皆の後を歩く少年が一人。友達と遊びたい、でも話しかけられない、何とかして話しかけ仲間に入りたい、つながりたい。けれどもできない寂しい少年です。

私たち大人は求めればどこかに属し言葉を交わし、時には行動を共にする仲間ができ、つらさ寂しさは和らいでいきます。

でも子どもは、誕生のその日から「生きていく条件」（親から受け継いだ精神的肉体的特性や環境）が異なる中で生きていきます。その過程で様々な感性、意識、個性が育ちますが、その条件は自分で選ぶことができません。そしてそんな現実の中で、人とつながれずに、寂しい、悲しい、つらい気持ちを心に抱えながら一生懸命生きている子どもたちが、いつの時代にもいます。子どもは皆、自分の心をわかってほしいと願い、時には辛い自分を抱きしめ、甘えさせてほしいと心から願っています。

一方、わたしたちが時々目にするこんな光景があります。夕暮れ時、大人が二人遠慮がちに交わす会話「お久しぶりです…。そして高齢の二人の「今日も一日無事に終わりました…もうおやすみなさいですね…」と静かに頷きながらの挨拶です。また、あちらでは、家族の心配事やご近所の消息を話題にしています。このような一時は誰にとっても必要で、日常的に重いものを抱えている私たちの心が解放される貴重な人との交流時間です。

特に私たち高齢者の心の底にあるのは、人とつながりたい、自分を知ってほしい、自分の思いを共有してほしいという願いなのですが、これは年齢を問わず人としてだれもが願うこと。そして改めて思うことは、子育て中の様々な悩みを抱えた親御さんにとって本当に切実な思いだということです。

人は一人では生きられない。人は人とつながりたい。でもそうすることで自分が傷つくことも覚悟しなければならないのですが…。

色々な場面を見聞きする昨今ですが、改めて YMCA が愛を持って人とつながり、人に対して、社会に対して様々な思いを共有させていただいた大切な場であったことを痛感しています。

須田 聖子

